

令和元年度 全国学力・学習状況調査 分析結果（国語）

分析結果

○県・全国の結果から見た本校生徒の傾向分析と考察

1 県や全国を上回っているもの

・書くこと

◎伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことや、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる。

◎日頃から書くことに嫌がらずに取り組めるため、成果が出ている。

・読むこと

◎文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことができる。また、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことができる。

◎自分なりの感想をもったり、文章を読んで自分と重ねたり比較したりすることは、日頃から意識させているため、力がついている。

2 県や全国を下回り、課題となるもの

▲言語についての知識・理解・技能

▲封筒の書き方を理解して書くことについて、正答率が低い。

▲手紙を出すという実体験が少なく、授業内で扱うことも少ない。

成果と課題（対策）

1. 成果

◎様々な形態の文章を書く機会を作っており、国語の授業以外でも書くことは多い。そのため、文章を書くことに対して抵抗がなく、長い文章を決められた時間内にまとめることができる。

2. 課題と対策

▲「言語についての知識・理解・技能」の分野について、漢字や書写の指導は積極的に行う一方で、手紙やお礼状の書き方にはあまり触れることがなく、実践的な指導ができていない。今後は、総合的な学習の時間の中で実際に手紙を書いたり、学活の中で話し合いをもったりして、指導の機会としていきたい。

令和元年度 全国学力・学習状況調査 分析結果 (数学)

分析結果

○県・全国の結果から見た本校生徒の傾向分析と考察

1 県や全国を上回っているもの

◎<学習指導要領の領域>で見ると「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての分野で全国平均を上回っている。(「数と式」0.6ポイント「図形」0.9ポイント「関数」:2.1ポイント「資料の活用」2.1ポイント)

◎県平均と比較すると、「数と式」「関数」の2分野は県平均を上回った。

(「数と式」:0.8ポイント 「関数」:0.6ポイント)

◎<評価の観点>で見ると「数学的な考え方」「数学的な技能」「数学的な知識」のすべての分野で全国平均を上回っている。(「数学的な考え方」:0.6ポイント「数学的な技能」:4.2ポイント、「数学的な知識・理解」:3.9ポイント)

◎県平均と比較すると、「数学的な知識」「数学的な技能」は県平均を上回っている。

(「数学的な知識・理解」:1.6 「数学的な技能」:1.6ポイント)

◎<問題形式>では「選択式」「短答式」で全国平均、県平均を上回った。

(「選択式」:全国+3.5ポイント 県+1.1ポイント)

2 県や全国を下回り、課題となるもの

▲<学習指導要領の領域>では「図形」「資料の活用」で県平均を下回った。

(「図形」:-1.2 「資料の活用」:-0.4)

▲<評価観点>では「数学的な見方や考え方」が県平均を1.4ポイント下回った。

▲<問題形式>では記述式の問題形式の正解率が県平均よりも2.1ポイント低く、全国平均より0.8ポイント低い。

成果と課題 (対策)

1. 成果

◎日ごろから行っていた計算テストの成果が出ており、数と式の分野では全国・県平均を上回ることができ、評価の観点における技能面でも全国・県平均を大きく上回ることができた。

◎日ごろから授業に復習を取り入れることで、知識の定着や技能の向上が成果として出ており、「数学的な知識・理解」「数学的な技能」の観点で全国・県平均を大きく上回ることができた。

2. 課題と対策

▲数学的な考え方のような基本を応用する問題を苦手としていることが分かる。また、記述問題の平均正解率も県を大きく下回っており、自分の考えを分にして表すことが苦手であることがわかる。

▲応用問題がどのような基礎の組み合わせであるのかまで細かく指導することで苦手意識をなくしていく。話し合い活動や教え合い活動を積極的に取り入れ自分の考えを他者に伝えられるようにし、伝えたことを文にできるよう指導していくことで、記述問題に対して苦手意識をなくしていきたい。

令和元年度 全国学力・学習状況調査 分析結果（英語）

分析結果

○県・全国の結果から見た本校生徒の傾向分析と考察

1 県や全国を上回っているもの

◆聞くこと

◎教室英語を正しく聞き取ることができた。

⇒授業内で教室英語を多用しているため、慣れていたことが考えられる。

○日常会話から、必要な情報（日付、行事名）を正確にききとることができた。

⇒日々の授業で、ミニトークや日付などを繰り返し練習している成果が表れた。

◆読むこと

◎まとまりのある文章を読み、話のあらすじを理解することができた。

⇒未履修の単語もあったが、選択肢を参考にしながらおおまかに内容を読み、的確にキーワードを読み取ることができた。

○簡単な文で書かれた内容を正確に読み取ることができた。

⇒文脈の中における語句の意味を的確にとらえることができた。

◆書くこと

◎文の中で適切に接続詞を用いることができた。

2 県や全国を下回り、課題となるもの

◆聞くこと

▲聞いて把握した情報をもとに、英語の意見を書く。

▲まとまりのある英語を聞き、話の大筋をつかむ。

◆読むこと

▲説明文を読み、書き手がもっとも伝えたい内容を選択する。

◆書くこと

▲与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く。

成果と課題（対策）

1. 成果

日ごろ、日常的な会話を英語で言ったり、日付や天気などを毎日繰り返し質問したりしている。その結果、聞くことに関する問題の日常会話や教室英語を活用した問題では、一定の成果を得ることができた。

書く活動では一般動詞の時制に着目し、肯定文や疑問文を正確に書くことができた。時制や人称など初歩的な言語材料については定着していると思われる。

読む活動では未履修の単語もあったが、前後の文脈から意味を推測しながら読み進めていくことができた。読みやすい部分を手掛かりに、読みづらい段落を推測しながら読むことができた。

2. 課題と対策

書く活動では、まとまりのある文を構成することが苦手であることがわかった。対策として①書きたい内容について考えを整理する。②書きたい内容について、簡略化された（自分ができる範囲の）英語で表現できるか考える。③書きたい内容について、一貫性をもたせる。県学力調査でも表現問題で点数が伸び悩んでいたため、2学期以降重点的に取り組んでいく。

分析結果

1 全国・県の値をかなり（10%以上）上回った項目

- ◎自分にはよいところがあると思う。
- ◎先生はあなたの良いところを認めてくれている。
- ◎総合的な学習では、情報の収集、整理、発表ができた。
- ◎学校をよりよくするための話し合いを学級活動で行っている。
- ◎学級活動での話し合いの結果、自分が努力すべき事が分かっている。
- ◎発表の場では、自分の考えがよく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫している。
- ◎国語の授業内容がよく分かる。
- ◎国語の授業内容を普段の生活に活用しようとしている。
- ◎英語の授業はよく分かる。
- ◎原稿を読まずに自分の考えを英語で伝え合う活動が行われた。
- ◎英語で聞いたり読んだりしたことを、英語でまとめたり、書いたりしてきた。

2 全国・県の値より下回り、課題となる項目

- ▲家庭学習時間が1時間以下の生徒が35%いる。
- ▲数学の必要性や興味・関心がやや低い。

成果と課題（対策）

1 成果

69項目のアンケートのほとんどが、全国や県と比較して良い結果が示されており、朝食摂取や睡眠時間等の生活に安定感を感じることができる。自己肯定感も高く、先生や友人に自分の存在価値を認められながら生活できているため、学校に登校するのが楽しいと感じている。

教科で学んだことを生活に活用したり、総合的な学習の課題設定や解決するための手立てがきちんと組み立てられたりしていることが、結果に表れている、

2 課題

与えられた宿題は確実に実施できるが、自ら計画を立てて進める自主的な学習量は少ない。また、教科への興味・関心や必要性に関しては、ばらつきが見られる。

3 対策

家庭学習においてはこれまで通り「北浜中家庭学習のすすめ」や生活ノートを通して、担任から計画的かつ継続的な学習が主体的になされるよう今後も働き掛けていく。また、長期休業中における補習や部活動の顧問からの投げ掛けも強化しながら、文武両道の精神を育てていく。

教科への興味・関心や教科の生活への活用については、更に単元ガイダンスを充実させたり、個に応じたワークシートを活用したりするなど、個に応じたきめ細やかな指導をしていく。